

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
鴨川市	貝渚地区	令和3年3月8日	令和3年12月17日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	61.3ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	59.5ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	19.2ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.2ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	8.6ha
④地区内における中心経営体が引き受けている耕作面積の合計	5.9ha
⑤地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	27.3ha
(備考)	

- 注1:③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

耕作放棄地や高齢化による後継者不足が深刻化し、特に南部地区(基盤整備済)の担い手減少が進んでいる。新たな担い手の確保が必要。
--

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

耕作放棄地や後継者不足が深刻化している農地及び水田利用は、中心経営体である認定農業法人貝渚営農組合が、農地中間管理機構を利用し集積していく。
--

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引き受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	施設野菜、水稲	1.95ha	施設野菜、水稲	0ha	地区内
認農	B	水稲、露地野菜	2.06ha	水稲、露地野菜	0ha	地区内
認農	C	施設野菜、水稲	1.52ha	施設野菜、水稲	0ha	地区内
認農	D	施設野菜	0.33ha	施設野菜	0ha	地区内
認農法	(農)貝渚営農組合	水稲、野菜	0ha	水稲、野菜	27.3ha	地区内
計	5経営体		5.86ha		27.3ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引き受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>○農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は、400筆、273,456.36㎡となっている。</p>
<p>○農地中間管理機構の活用方針 南部と中部地区を重点実施地区とし、将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。 中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。</p>
<p>○基盤整備への取組方針 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、中部地域において、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備に取り組む。</p>
<p>○新規・特産化作物の導入方針 米の土地利用型作物以外に、基盤整備された農地を中心に高収益作物などの園芸作物の生産に向け取り組む。 中心経営体である認定農業法人貝渚営農組合が、加工や輸出に向けた取り組みを進める。</p>
<p>○生産コストの低減と作業効率化の向上 中心経営体である認定農業法人貝渚営農組合がライスセンターを建設し、規模拡大、生産コストの低減が図られ、地域農業の中心的な担い手として安定した経営を行う。</p>